

Ⅱ 令和3年度のあらまし

1 教育事業（詳細は、P 6～50参照）

青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の各年齢期に必要とされる体験活動（自然体験、社会体験、生活体験等）の適切な場と機会提供の場とするために教育事業を実施してきた。

「次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業」として、モデル的事業（実践研究事業）の長期自然体験『アクティブ・ジオキャンプ』（13泊14日）をはじめ、課題を抱える青少年の支援事業として『わくわくキャンプ』『学びチャレンジキャンプ』『学びふれあいキャンプ』、地域ぐるみ事業として、ばんだいいGW 家族対象事業『体験の風をおこそうプロジェクト2021』（5回）、『バイリンガルキッズ』（2回）『ばんだいい親子チャレンジカヌー』『自然体験プログラム』『ばんだいいキッズキャンプ』（2回）『アグレッシブキャンプ』『日本の正月文化を楽しもう』『ふれんどキャンプ（防災編）』、全国高校生体験活動顕彰制度として、学校・団体参加型『地域探究プログラム』個人参加型『高校生ふるさと探究プロジェクト』、体験の風をおこそう運動推進事業の『あらうんどキャンプ』『第5回いなわしろフェスティバル』、16の事業。



アクティブ・ジオキャンプ2021

「青少年教育指導者等の養成・研修事業」として、自然体験活動指導者養成事業『NEAL リーダー養成講習会』、ボランティア養成・研修事業『ボランティアセミナー』、ボランティア養成・自主企画事業『ボランティアスキルアップ・ばんだいいオータムキャンプ』、『教員免許状更新講習』の4事業。

「東日本大震災復興支援プロジェクト」として、『第7期福島こども未来塾』①～⑦の1事業を実施した。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、延期したり web 開催・日程短縮等、開催方法を工夫したりしながら、できるだけ多くの青少年に体験の機会を提供するように努めてきた。また、福島こども未来塾については、東日本大震災復興支援財団様や機構本部と何度も話し合いを重ね、令和4年度以降も当面の間は、これまで通り開催していくこととなった。

2 研修支援（詳細は、P 51参照）

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策を万全に利用者を受け入れるとして総利用者数をコロナ前に少しずつ近づけられるよう、目標値を123,000人と設定した。しかし今年度も福島県に2度の「まん延防止等重点措置」が発令されたことから、利用者のキャンセルが相次ぎ、目標値の3割の程度の利用となった。このような状況下ではあったが、「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」国民運動、子どもゆめ基金説明会は、コロナが収まっている時期を見計らい、可能な限り実施した。

広報活動は、春と秋の2回開催された福島県内7つの域内校長会、福島県教育委員会、新潟県教育委員会、茨城県教育委員会、千葉県教育委員会へ所長を中心としたチームで訪問し、効果的・効率的に広報活動を実施してきた。また、職員のネットワークも生かし、道の駅や茨城県の県北生涯学習センター等、新たな広報先を開拓した。

3 地域との連携

(1) 運営協議会の開催

令和3年度国立磐梯青少年交流の家運営協議会名簿（敬称略）

No	氏名	所属職名
1	市川 隆 (委員長)	東北大学名誉教授
2	渋川 卓也	福島県教育庁社会教育課長
3	鬼多見 賢	猪苗代湖の自然を守る会代表
4	安斎 康史	福島民報社編集局長
5	佐藤 秀美	福島県小学校長会 会長
6	櫻井 康博	埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター教授
7	小池 正博	福島民友新聞社 若松支社長
8	中野 充	新潟青陵大学福祉心理学部臨床心理学科准教授
9	平塚 康晴	福島県 PTA 連合会会長
10	増子 恵二	ボーイスカウト福島県連盟 副連盟長
11	谷 雅泰	福島大学 理事・副学長
12	佐藤 俊市郎	福島県公立学校退職校長会長
13	小池 カンナ	株式会社リオン・ドールコーポレーション取締役
14	渡部 英一	有限会社みなとや 代表取締役社長（新）
15	渡部 幸四郎	株式会社シグマ 経営企画本部参与（新）

令和3年度は、新たに2名の委員に運営協議会に加わっていただき、12月に「運営協議会」を実施した。前半は令和3年度の経営運営ビジョンをもとに「令和4年度の経営・運営ビジョン(案)」「研修支援」「教育事業」「人事・総務」「財務・施設」について報告し、委員の方々から忌憚のないご意見をいただいた。

後半は2つの共通課題をもとに、3グループに分かれ、協議を行った。



運営協議会（R3.12.20）

共通課題

- 「国立磐梯青少年交流の家」を広く県内外の方々を知っていただきたい。（知名度を上げたい。）誰でも利用できる施設。私たちのミッションや役割を分かりやすく県民等に広報したい。そのためにどのように取り組んでいくべきであるか。
- 今後、子供たちに身に着けていくべき力はどんな力か。そのために所はどんなプログラムを提供し、どんな役割を果たすべきか。

3グループの視点

- 1グループ：広報関係 2グループ：事業関係 3グループ：施設運営関係

分科会では、共通課題以外にも話題を提供し、委員一人一人それぞれのお立場から事例を伺うことで、当交流の家での取り組みに、新たな改善の視点を与えていただくなど、有意義な時間を過ごすことができた。

当交流の家が今年度から始まった第4期中期目標・中期計画を踏まえた取り組みに対していただいた貴重なご意見を反映させ、次年度の運営に活かしていく。

(2) 会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会

令和3年度より主催を全て「国立磐梯青少年交流の家」とし、子供たちの「直接体験」の機会の減

少における「生きる力」の低下を危惧する課題に対し、地域の各種団体が連携し、特色を生かした体験活動の提供、また、普及啓発を行いながら、未来を担う地域の子供たちに、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの基盤を養い、家庭や地域社会に体験活動の重要性を普及してきた。昨年度同様のコロナ禍ではあったが、可能な限り「体験の風をおこそう」普及啓発活動を次の通り実施してきた。



猪苗代湖の自然を守る会との連携
地元の小学生の総合学習支援
(R3.6.1)

- ①「第5回いなわしろフェスティバル 春」の開催
(詳細P29 参照)
- ②「子どもの生活リズム向上山形県フォーラム」(山形県教育委員会)の開催
- ③「猪苗代湖の水質向上」のため(猪苗代湖の自然を守る会)の連携
- ④「早寝早起き朝ごはん」国民運動普及啓発キャラバン(詳細P49 参照)
- ⑤「あらうんどキャンプ」体験の風をおこそう運動推進事業

令和3年度会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会名簿(敬称略)

No	氏名	所属職名
1	宇南山 忠明 (実行委員長)	猪苗代町教育委員会教育長
2	高橋 和広	磐梯町教育委員会教育課長
3	鈴木 力男	北塩原村教育委員会教育長
4	遠藤 和夫	磐梯山ジオパーク協議会会長
5	増子 恵二	ボーイスカウト福島連盟副連盟長
6	青木 徳平	株式会社まちづくり猪苗代
7	鬼多見 賢	猪苗代湖の自然を守る会代表
8	佐々木 豊	猪苗代町小中学校長会会長
9	渡邊 周二	福島県郡山自然の家所長
10	武田 光弘	福島県会津自然の家所長
11	大和田 洋	福島県いわき海浜自然の家
12	渡部 一登	一般社団法人猪苗代青年会議所理事長
13	奥山 敦	山形県教育庁生涯教育・学習振興課長
14	吉水 順一	山形県飯豊少年自然の家所長
15	佐藤 博之	山形県PTA連合会会長
16	福士 寛樹	国立磐梯青少年交流の家所長

(3) 教育事業における実行委員会

- ①「第5回いなわしろフェスティバル 春」実行委員会
- ②「アクティブ・ジオキャンプ」実行委員会

各実行委員会とも、企画の段階から、運営に至るまで連携、実施をすることにより、地域の方々の指導や協力を得ることができた。アクティブ・ジオキャンプは、事後検討会も実施し、事業の効果について話し合った。



アクティブ・ジオキャンプ実行委員会
(R3.6.15)

(4) 各大学等との連携

- ① ボランティア活動の充実

各種教育事業を実施するために、各大学（福島大学，新潟清陵大学，郡山女子大学短期大学部，日本体育大学，立正大学，帝京大学）の学生に参画をしていただいた。ボランティアの中には、社会人も3名いた。

② サービスラーニングの受入

今年度は、計画していた教育事業開催時に「まん延防止等重点措置」が発令され、受け入れ不可となった。



オータムキャンプにおいて
キャンドルホルダーづくりの指導
(R3.10.23)

(5) 青少年施設連携

① 東北青少年施設協議会

今年度は、秋田県立大館少年自然の家（秋田県大館市）が事務局であったが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催は見合わせられ、冊子の作成・配布に代えることとなった。

② 東北連携会議

国立青少年教育施設東北地区4施設（岩手山・花山・磐梯・那須甲子）の連携を強化し、各施設における業務の活性化を趣旨としている。今年度は岩手山青少年交流の家が事務局となり取り組んだ。各施設のフェスティバルの協力や合同の職員研修を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催もあった。

③ 福島県自然の家会議

福島県会津自然の家を中心に、郡山自然の家，いわき海浜自然の家，国立磐梯青少年交流の家，国立那須甲子青少年自然の家と連携会議を行ってきた。会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会の連携が主な活動となる。

4 社会教育功労者表彰，法人ボランティア表彰

(1) 社会教育功労者表彰

当交流の家の研修指導員で「レクリエーション」を担当していただいた橋本博子氏が令和3年度社会教育功労者表彰（文部科学大臣表彰）を受賞した。長きにわたって、当交流の家の研修指導員として学生等に対してだけでなく、会津地域の青少年団体や老人福祉センターでもレクリエーションを実施し、社会教育振興への貢献が認められての受賞となった。



当交流の家所長室にて
(R3.12.24)

(2) 法人ボランティア表彰

当交流の家を中心にボランティア活動を積極的に行った4名が、令和3年度法人ボランティア表彰を受け、それぞれの大学において表彰状授与式を執り行った。



新潟青陵大学 4年 大泉 瑛末 (中)
表彰式 R4.3.17 4年 高木 里穂 (左)



立正大学 4年 工藤 彩渚
表彰式 R4.3.19 (左から2番目)



R4.3.8 あいさつのため来所

福島大学 4年 内田 知也 (右)
※内田君の表彰式は R4.3.25実施
立正大学 4年 工藤 彩渚 (左)
【所長室にて】